

事業所名

家庭福祉相談室

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025年

3月

5日

法人（事業所）理念	個々を大切に、発達段階に沿った支援を行います。家族に寄り添い、共に成長を見守ります。				
支援方針	子どもは遊びの中で成長する 社会生活でいきる「自分らしさ」を支える 子どもの年齢・段階に合わせた援助を保護者と協働して行う。				
営業時間	9時	0分	17時	0分	送迎実施の有無 あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/>
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	生活スキルの獲得（トイレトレーニング、着脱、食事のマナー、食具の使い方等）			
	運動・感覚	粗大運動：戸外遊び、感覚統合遊び（ブランコ・トランポリン・ロッキングホース・フレキサースwing・ウッドジム）、ムーブメント遊び、リトミック（パラバルーン）、サーキット運動（巧技台・平均台・はしご） 姿勢保持（ひとりひとりに合わせた椅子や机のセッティング）微細運動：粘土、大豆遊び、フィンガーペインティング、工作遊び（はさみ・のり）、運筆、ビジョントレーニング、カプラ、クワドリラなど			
	認知・行動	個々の発達・興味に応じ、色、数、大小、長短等の概念を育む遊び スケジュールの視覚化、環境の構造化			
	言語 コミュニケーション	発語発話を促していくための、発声・指差し・ジェスチャー・絵カード・模倣言語など、子どもの言語発達段階に応じた関わり。コミュニケーションの基礎となる、注目・追視・動作模倣、共同注視等を促す。 他者とのやり取りを通して、気持ちの適切な表現方法を身につける。 言葉の指示を聞いて理解したり、他者の言葉を聞いて相手の意図を理解する力を育む。 文字に触れる機会を作り興味を育む（絵本、名札、文字を用いたスケジュールカード等の活用）。			
	人間関係 社会性	必要に応じ1対1でのやり取りの中で、家族以外の他者とも信頼関係を築く。 小集団での活動を通じ、集団生活のルールを知る。就学に向けた、自己コントロール（行動・感情）の力を育む。 親子療育を通して、保護者が子どもとのかかわり方を知り、愛着の形成を援助する。			
家族支援	個人面談や電話相談、保護者グループ（グループカウンセリング、ピアカウンセリング）、療育前後の引継ぎを通して、子どもの課題、家庭での悩みを共有と助言 きょうだい支援の実施 卒業児童の保護者同窓会、先輩保護者のお話会、就学説明会などの実施	移行支援	併用利用先や学校、幼稚園保育園との情報共有や支援のすり合わせ 進路先や移行先への相談援助や情報提供		
地域支援・地域連携	こども園・保育園・幼稚園や学校、併用事業所との情報連携や調整、支援方法についての情報共有、相談援助 医療機関との情報連携や調整 地域資源を活用した行事の実施 子育て支援として「育ちの広場ちびちび」の実施 相談支援事業所との連携	職員の質の向上	内部研修の実施（虐待防止・身体拘束・防災・発達支援など）外部研修参加費助成 法人事業所の運営に関わる資格取得への助成により専門性を高める 療育前後にミーティングを実施し、職員間の意思疎通、チームワークを高める。		
主な行事等	親子行事（レクリエーション、人形劇、ムーブメント、遠足、工作会、お口の相談会など） 季節行事（夏祭り、クリスマス会、水遊び遠足、そり遠足、お別れ会） お楽しみ会（買い物遠足、クッキング）				